

記者発表(発表・資料配布)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	配布先
9/16 (水)	県立農林水産技術総合センター (病虫害防除所)	0790-47-1222	病虫害防除所長 (神頭 武嗣)	北播磨県民局 県庁記者クラブ

令和2年度病虫害発生予察注意報 第4号
「ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策」について

兵庫県立農林水産技術総合センター(病虫害防除所)は、農作物を加害する病虫害の発生状況を調査するとともに、気象条件を考慮してその後の発生を予測し、普及指導員やJAの営農指導員等に「予察情報」として提供しています。

病虫害防除所が実施しているフェロモントラップ調査で、8月下旬以降、ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウの誘殺数が急増しており、幅広い農作物(野菜類・花き類・豆類)で被害が発生することが懸念されます。

ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウの発生状況および防除対策について、関係機関からの指導を促すために「病虫害発生予察注意報 第4号」を発表します。

記

- 1 対象作物 野菜類・花き類・豆類
- 2 病虫害名 ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ
- 3 発生地域 県内全域
- 4 内容 詳細は別紙「注意報」のとおり

(電子メール施行)
農技 第1242号
令和2年 9月16日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察注意報 第4号を發表します。

ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウのフェロモントラップでの誘殺数が、8月下旬以降、急増しています。野菜類、花き類及び豆類において被害の発生、拡大が懸念されますので、発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

令和2年度病害虫発生予察注意報 第4号

ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策について

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 対象作物 | 野菜類・花き類・豆類 |
| 2 病害虫名 | ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 9月中旬～10月下旬 |
| 6 発生状況について | |

両種ともに6月～7月中旬のフェロモントラップでの誘殺数が平年を大幅に上回ったことから、7月21日付で「病害虫発生予察防除情報第1号」を發表し、注意喚起を行ってきた。

その後、平年並～やや多で推移していたが、8月下旬以降、再び誘殺数が急増している(図1、図2)。

(1) ハスモンヨトウの発生状況

- ① 加西市と南あわじ市に設置しているフェロモントラップにおいて、9月上旬に誘殺数が急増している(図1)。

特に南あわじ市では、8月下旬から誘殺数が増加しており、8月5半旬～9月2半旬の合計誘殺数は383頭で、平年(114頭)を大きく上回っている。

- ② 9月7日に加西市のダイズ予察圃場で実施した調査では、1aあたりの白変葉(群棲した若齡幼虫の食害:写真1右)が、白ダイズで3箇所(平年0.3箇所)、黒ダイズで4箇所(平年0.5箇所)と、平年よりも多い。

(2) シロイチモジヨトウの発生状況

- ① 南あわじ市に設置しているフェロモントラップにおいて、8月中旬以降、誘殺数が増加し続けている（図2下）。

8月3半旬～9月2半旬の合計誘殺数は898頭（平年：358頭）であり、過去に注意報を発表した2018年同時期の662頭を上回っている。

- ② 加西市のフェロモントラップ誘殺数は、今のところ、平年並～やや多で推移しているが、過去の多発年（2018年）には9月2半旬に突発的なピークが見られており、今後、誘殺数が急増する可能性がある（図2上）。

- ③ 9月9日に南あわじ市のネギ圃場で実施した調査では、幼虫の発生圃場率は100%（7/7圃場）であり、寄生株率が90%を超える甚発生圃場も確認している。

また、キャベツ（神戸地域）やカーネーション（淡路地域）においても幼虫の発生を認めている（写真3）。

7 今後の発生予想について

- (1) 両種とも、例年9月以降に季節的な発生最盛期を迎える。特に野菜類・花き類では今後、秋作の育苗、植栽が進むにつれて被害が拡大すると予想される。
- (2) 近畿地方の向こう1カ月の気温は平年より高く推移すると予想されており、両種の発生が助長されると考えられる。

8 防除上の留意点

- (1) 両種とも加害作物は、キャベツ、ハクサイ等の野菜類から、カーネーション、キク等の花き類、ダイズ、アズキ等の豆類と広範囲におよぶ。
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ（写真1左）、孵化直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真1右）。
卵塊や分散する前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット（目合4mm以下）、黄色灯、性フェロモン剤（交信かく乱剤）の利用が有効である。
- (4) 中・老齢幼虫には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。
シロイチモジヨトウでは、平成30（2018）年から実施している薬剤感受性検定において、一部のジアミド系薬剤の殺虫効果が低く、圃場間差もみられているので、使用にあたっては散布前と散布後（1～3日後）の状況を見て、防除効果の確認に努める。
- (5) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。
(<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)

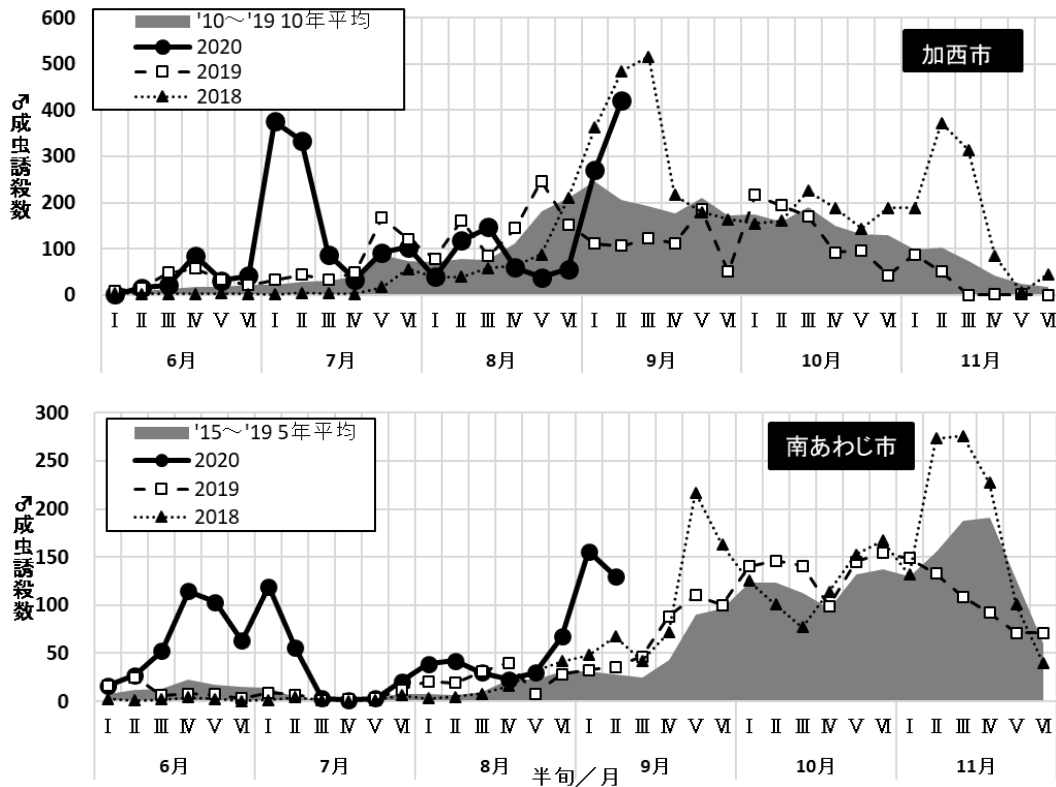


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移

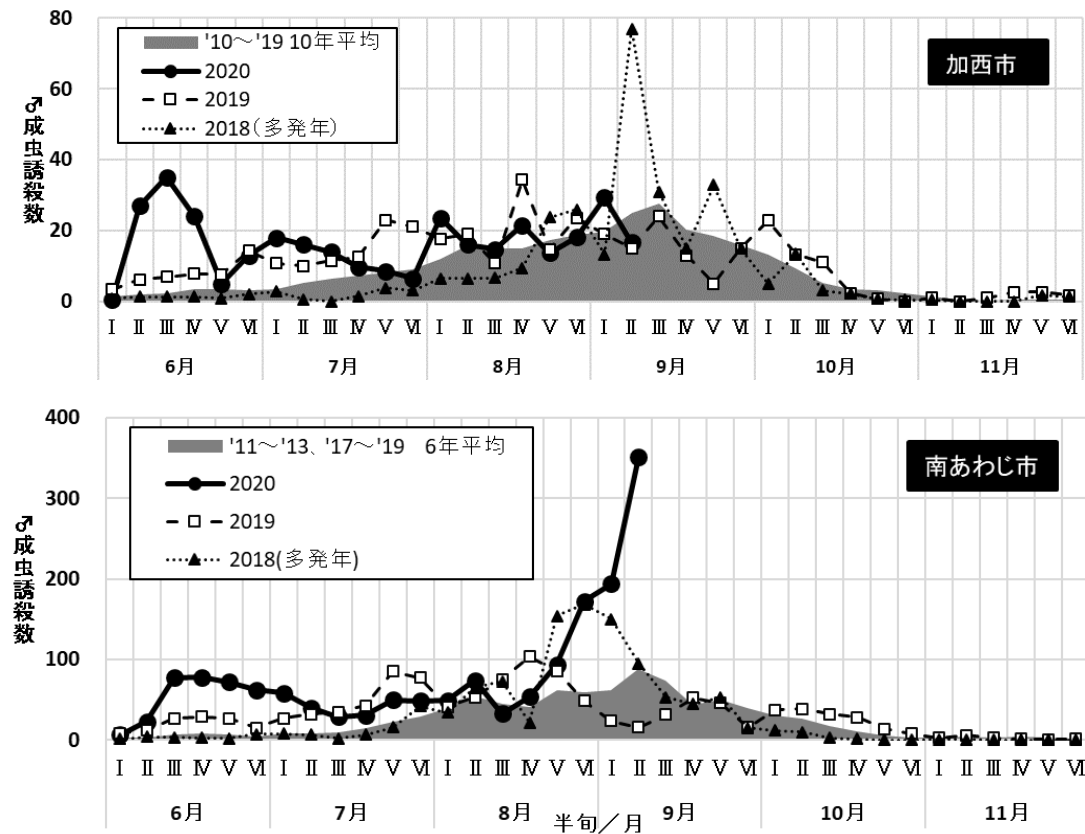


図2 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺数の推移



写真1 卵塊及び群棲する若齢幼虫

(左：シロイチモジヨトウの卵塊、右：「白変葉」と呼ばれるダイズの初期食害葉と葉裏に群棲する若齢幼虫)



写真2 中・老齢幼虫 (左：ハスモンヨトウ、右：シロイチモジヨトウ)

※ハスモンヨトウには頭部の後ろに1対の目立つ斑紋がみられる (黄矢印)



写真3 シロイチモジヨトウによる被害 (左：ネギ、中：キャベツ、右：カーネーション)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222